玉名市学校規模適正化審議会（第２回）会議録

・会議録

開催日時	令和３年２月 10 日（水）　午後６時 30 分～8 時まで
開催場所	玉名市役所　4-2 会議室
委　員	別紙にて
出　席　者	委　員　13 名 玉陵小学校井上校長先生、福島教育長・西村教育部長・前田首席審議員・小山教育総務課長・桑本教育審議員・髙田教育総務課指導主事・乗富教育総務課教育政策係長・大礒参事・中山主事・稲田主事
欠　席　者	高根委員、田代委員、徳永委員、前川委員
議　事	

１　開会

２　教育長あいさつ

３　講話
（１）小中一貫教育について
　放送大学熊本学習センター　客員教授　古賀倫嗣　氏
（２）玉陵小学校の今の姿
　玉名市立玉陵小学校　校長　井上加寿子　氏

４　議事
（１）2020-2025 年の生徒の推移について
（２）笑顔を育む玉名の教育プランについて
（３）玉名市の小中一貫教育のとりくみ
（４）育てたい玉名の子ども像（小学生・中学生）
（５）学校教育環境の充実について（教育内容・校舎）

５　その他
・次回の日程調整　（予定日）

６　閉会

・審議内容

１　開会

事務局（乗富）：皆様こんばんは。定刻となりましたので、第２回玉名市学校規模適正化審議会を開催いたします。本日は大変お忙しい時間にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。議事に入るまでの間、進行を勤めさせていただきます乗富と申します。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。本日の審議会の日程ですが、玉名市学校規模適正化審議会の次第に沿って進めさせていただきます。コロナ禍でもありますので、開催時間を１時間 30 分程度としたいと考えております。本日は、17 名の審議会委員のうち 2 名の委員にご欠席いただいております。玉名市学校規模適正化審議会要項第６条第２項の規定によります、委員の半数以上出席という成立要件を満たしているということをご報告申し上げます。本日の出席者は本日の次第に添付しております。本日は、「田代委員、徳永委員」が欠席でございます。本日の議事については、議事録を作成し、原則として公開いたします。議事録作成のため本日の審議会は録音いたします。後半に意見交換の時間がございます。発言をなさる際は、発言の前にお名前を言っていただきますようお願いいたします。また、本日の資料の中に、第１回審議会の会議録がございます。内容をご確認いただきますようよろしくお願いいたします。なお、修正が必要な場合は事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

２　教育長あいさつ

事務局（乗富）：それでは、審議会を開会いたします。はじめに、玉名市教育委員会福島教育長がご挨拶申し上げます。

福島教育長：皆さんこんばんは。昼間のお仕事等で大変お疲れのところ、またお忙しい中に学校規模適正化審議会にご出席いただきましてありがとうございます。私、12 月 4 日より玉名市教育長の職を仰せつかっております、福島和義と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は教育長就任にあたりまして、３つのテーマをもって業務を進めているところです。1 つ目は「今、そして未来に夢が持てる」教育行政です。教育の場は申すまでもなく学校だけでなく、家庭や地域社会も含め全てであると考えております。その教育の場である学校・家庭・地域社会のすべてが一体となれば、子供たちが未来に夢を持つ教育が行えると信じております。2 つ目は、「安心・安全が実感できる」教育行政です。安心・安全はいうまでもなく、すべての脅威から子供たちを守ることを意味しております。いじめや不登校の問題、あるいは SNS 等にかかる犯罪、あるいはコロナ感染症など、子供たちを取り巻く環境の変化に対応していきながら、子供たちが安心して教育を受けることができる環境を整えていきたいと思っております。3 つ目は、「玉名大好き」を実感できる教育です。ICT の普及やグローバル化など、変化していく現代社会の中で、国際的な視点を持ち、時代の変化に対応できる力をつけることは大変重要であると思います。そのため玉名の子供たちには、玉名を愛し地域社会を担う力を蓄えてもらいたいと思っております。この 3 つのテーマが私の教育理念の中心にあります。「教育」は未来への「先行投資」であります。将来を担う子供たちが、自他のかけがえのない価値を認識しながら、協働し、様々な分野に積極的に

挑戦をし、自らの可能性を高めていけるようにすることが教育の最大の使命であると考えます。学校規模適正化はその手段の一つであります。申すまでもなく学校は知識や技能の習得だけではなく、子供たちが集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨し、思考力、判断力、表現力等を育み、社会性あるいは基礎体力、規範意識等を身に付けるところであります。そのような教育を行うためには、やはり一定の学校規模、学校環境の確保が重要であり、委員の皆様には向こう 10 年の玉名市学校規模配置適正化基本計画の策定に向け、論議をいただき、県議につなげたいと思っております。本日も熊大の古賀先生の方にはお忙しい中にご出席いただきましてありがとうございます。また、玉陵小学校の井上校長先生には玉陵小の今の様子をご報告いただき、いろいろとご質問いただければと思っております。本日もコロナ禍の中でありますので、短時間で進められるように是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。大変お世話になります。

3　講話

事務局（乗富）：　それでは、次第３に移ります。本日は、古賀会長と玉陵小学校井上校長先生から講話をいただきます。まずは「小中一貫教育について」古賀会長お願いいたします。

古賀会長：あらためまして、こんばんは。本審議会の会長を務めている古賀でございます。今日はこれから、玉陵学園の小中一貫の取組を発表いただきますし、前回 11 月 26 日に開催された第 1 回の審議会で、小中一貫教育に関する関心やそういったものに基づくご意見等がありましたので、本日は小中一貫教育とは何かということで基本的なところのお話をさせていただく時間をいただいたところです。10 分間という限られた時間ですので、その中で大きく 3 つ、資料が 3 ページにございます。1 つが、小中一貫教育が必要とされてきた背景。2 つ目が、小中一貫教育とは本来「法律違反」です。法律違反の小中一貫教育を制度化していったプロセス、これが 2 番目です。3 番目が熊本県の実践事例ということで、熊本県で一番初めは旧富合小中一貫学校ですけれども、2 番目の宇土市の網田小中学校の取組をご覧いただきたいと思います。どうして富合ではなくて網田かというと、おそらく玉名市も同じような課題を抱えていると、そういうふうに思われたからであります。

　さて、レジュメの一番初めですが、小中一貫教育がなぜ必要か、このことについての第一人者が安彦忠彦先生という方であります。ずっと中央教育審議会の教育課程部会の会長をされていまして、早い話が学習指導要領をつくる第一人者であったという方です。この方がですね、こんなふうに言われています。「思春期に突入した子どもをそれまでと同様に小学生扱いをすると、学習面にも生活面にも悪い影響が生じかねません。不登校や問題行動は中学生になると急増しますが、その萌芽が小学校 5 年生にみられるという事実は、10 歳ですが、ここに一因があると考えられます。子どもは中学生になって突然変化するわけではありません。当然のことですが子どもは小学校から続く時間の連続の中で生きているのです。」こういった形で、小 5 から中 1 にかけての発達段階、これがどうも小学校中学校の 6・3 制にうまくなじまないということから出発されました。そして安彦先生のグループが 2000 年に広島県呉市で「小中一貫教育実践のスタート」を取ったわけです。2000 年というのはまだ小中一貫教育が制度化されてない前でありまして、極めて特例中の特例でございますが、「4・3・2 のカリキュラムが開く新しい学び」ということで文部科学省から研究

開発学校、研究開発学校にしますとある程度勉強する内容について自由裁量がきくということで、ここで「4・3・2」という、つまり小学校 1 年生から 4 年生までの前期、小学校 5 年 6 年中 1 の 3 年間の中期あるいはつなぎの時期、そして中 2 中 3 の 2 年間の後期という区分での「4・3・2」制というのが確立してまいります。現在小中一貫教育を実施されているところの 8 割ぐらいが 4・3・2 制を取っていると言われていますけれども、そういった意味では繰り返しになりますが、小学校 5 年生、6 年生、中 1、このつなぎの時期をしっかり考える、まさに思春期初期の発達段階に応じた指導による発達とカリキュラムの不整合の解決、こういったことをうたったところであります。

それが 2003 年になります。2 番目です。小中一貫教育の制度化ということですが、今から 20 年くらい前ですけれども、小泉政権の下で規制緩和であるとか、いろんなところでこれまでのやり方が変わってきたということはご案内かと思います。例えば玉名市にもコミュニティスクールがございますけれども、地域の人たちを学校運営の中に入ってもらうというコミュニティスクールもこの時期に入ってまいります。さて、小泉内閣はですね、構造改革特区という形でこの小中一貫教育を進めます。細かいことですけれども、「構造改革特別区域研究開発学校設置事業」という名前です。ここがこれまでの研究開発学校と違うのは、従来のものが文部科学省であるのに対して、ここは内閣府にあったということです。従いまして、かなり自由自在に法律と異なったやり方で、例えば今小学校で英語を教える、正確に言うと外国語活動ですが、実際は英語ですが、これはどういう根拠に基づいているか、ずっとこれはできなかった。もう 1 つの妨げは、教科書が無償なものですから、これが教科書を使うことができなかった、これはタダでなければ元々活用はできるんですが、教科書の無償法とか様々な縛りの中で、小学校の英語というものが始まっています。2003 年 2004 年の教育特区で募集をかけましたらほとんどが小学校で英語教育、つまり小学校で英語をやりたいというような、特別そこの学校だけに許されるという仕組みで英語をやるという形です。そしてその翌年 2004 年に全国で 3 つの地区で小中一貫、小中連携がスタートします。品川区については非常に有名ですけれども、あとは奈良県の御所市、そして熊本県富合町これが日本の小中一貫学校の第 1 号として 2004 年になります。今は、富合小中一貫学校は合併により熊本市に入っておりまして、今年で 17 年目を向かえるわけでありますが、こうした形で、小中一貫学校も富合を中心に熊本市内で現在合計 4 つだったかと思いますが、来年度にはあと 1 つ増えるという形で実施されていきました。ただ、だいたい教育の仕組みというのは 10 年経つと変わっていきます。それまでは小中一貫学校と言われていたものが、2016 年には義務教育学校というものが新設されました。簡単に言いますと、小中一貫学校というのは小学校と中学校があるというこの事実は変わりません。ところが義務教育学校というのは小学校中学校がありません。義務教育学校というものがある。よく小中一貫を進めるときに職員室が離れているからというわけですが、小学校の職員室、中学校の職員室なんてないんです。義務教育学校の職員室が 1 つあるだけ。これが 4 年くらい前でしたか、熊本県でも高森町に高森東学園として第 1 号、その翌年に産山村で始まったということになります。現在 2 つが熊本県では義務教育学校になっています。

最後に 3 番目ですが、網田小中学校における小中一貫教育の実践をお話したいと思います。この網田というところは、昔はですね非常に農業で盛んだったのですが、あっという間に過疎が進行しまして、人口が減少した。それまでは駅伝の網田中学校ということで駅

伝では素晴らしい成績を収めていたんですが、それもですね中々成果が出ない、そうした中で子供たちの様々な問題が出てきます。そうした様々な問題を地域で考えようという仕組みの中から小中一貫教育の取組が始まりました。従いまして、これもちょっと細かくて恐縮ですが、１）研究開発課題のところをご覧いただきますと、「自立心と豊かな人間性を育むため」以下はともかくとして、一般的に小学校で研究開発課題を作ると豊かな人間性と自立心です。なぜ自立心を始めにもってきたのか、地域の外に行って生き生きと活躍できたり、きちんとコミュニケーションをする能力というのが非常に不足している。地域の人に言わせればハングリー精神が足りない。そんなところから豊かな人間性よりも先に自立心だよと、こういった発想で出てきました。だからここではキャリア教育が中心になります。キャリア教育につきましては、２）のところに国立教育政策研究所のプログラムが書いてあります。これはだいたいキャリア教育をされている学校には資料がそろってるはずですけれども、上にも書いておりましたけれども、コミュニティスクールをすることによって地域の人たちの意見をたくさん取り入れる。そうしますと「地域が望む網田っ子像」ということで、自立心や向上心、自己有用感、自分は世の中の役に立っている、こういったところをしっかり据えないと、子どもの育ちというような形で入っていかない。おそらくこの玉名市の場合も、ただいま教育長様が学校統廃合のことをおっしゃいましたけれども、小さな小規模の学校、こういったところでは網田と同じような悩み、何か 1 つプライドを持てるような自信を持つような仕組みを作ろうということで始まりました。そして小中一貫教育というのは小学校中学校を通して一貫した体系的なカリキュラムを作るということになります。特にその中で網田が努力したのは新設教科「人とのかかわり体験科」ということでありまして、仕事や職業に関する体験活動を通して、勤労観・職業観及び職業に関する基本的な知識や技能を身に付け、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択・決定できる能力と態度を育てること、このようにうたわれてれています。言葉は難しいですけれども、一言で言えば、一人前の大人をつくる教育をやりましょうということであります。従いまして、玉名市でも中学校の 2 年生でスクールトライを実施されているかと思うんですが、それを小学校でも実施するなど、様々な形での体験活動をしております。ただここも~~ですね~~、2005 年に始まりまして今年 15 年目ですけれども、ようやく 8 年目くらいにして網田の海岸は漁業の海苔が中心なんですが、海苔を教材化することができました。地域教材としてどういうものを扱うのか、これはまた小中一貫教育実践の課題ではあるんですけれども、米とか農業は比較的簡単ですが、漁業である海苔をカリキュラムの中に入れる、もちろん漁協との協力なんかもありますが、これが初めて成果を出したということと、今どこの中学校でも言語活動の充実ということでスピーチ活動をやります。ところが熊本県では産山中学校というのが横綱です。あとはみんな十両にも届かないくらいのところであるんですが、この 9 年間を通して網田で育てた子どもが９年生（中学３年）になったときとうとう産山中学校の壁を崩して、全国大会に行くことになりました。そういった意味では、自分に自信を持ち、きちんと自分の考えを伝える力、コミュニケーションというのをキャリア教育の中で作ろうとした試み、十分成果が出ているかどうかということはまたきちんと評価するべきことだと思いますが、そういったものに取り組んだ小中一貫教育のテーマということで紹介したいと思います。

最後に申し上げておきますと、小中一貫教育はなぜ必要か、学校、保護者及び地域間で

しっかり共有するということと、小中一貫教育が現在は法律に基づく制度となっているということ、そしてそれを地域で実践する時には地域の教材であること、地域教材、地域の人たちをどういうふうに巻き込んでいくのかということが重要であるということをお話しさせていただきたいと思います。時間を超過しました、申し訳ありませんが、以上で私からのお話は閉じさせていただきます。ありがとうございます。

事務局（乗富）：ありがとうございました。続きまして、「玉陵小学校の今の姿」を井上校長お願い致します。

井上校長：皆様こんばんは、玉陵小学校の校長の井上と申します。実は本年度玉陵小学校へ赴任をいたしました。前任は小天小学校、実はですね天水中校区の新しい学校づくり委員会の方にも昨年度まで参加させていただいておりました。これまで玉名市教育委員会の皆様に大変お世話になり、その会の折には古賀先生にはたくさんのことをご指導いただいて、断りきれませんでした。今日私がここで話をするというのはですね、まだ来て 1 年も経っていないと思ったんですけれど、今日は本来でしたら統合当時の岡村校長先生がおいでになってお話をなさるのが適任と思いましたけれど、教育委員会からのご注文は今の姿を伝えてくれということでしたので、私の拙い説明でご容赦いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

資料は別に準備していただいているんですけど、今日私の話はこちらの画面でさせていただきたいと思います。座って失礼いたします。「玉陵小学校の今の姿」ということで先ほど古賀先生には、小中一貫教育の基本となるところを教えていただいたのですけれども、私の話はそちらの側面というよりも、統合して 3 年目という統合という方がちょっと強いかなと思います。開校 3 年目の玉陵小学校でございます。今日のお話の柱はですね、まず「象徴する数字」をご紹介します。次に「象徴する言葉」「象徴する写真」もいくつか持って参りました。「その他」「残る懸案事項」というこの柱立てでお話をさせていただきます。

「象徴する数字」こちらは左からですね、統合する前の 6 校の児童数でございます。100 人に満たない児童数で学習をしていた、本年度本校は 305 人の子供を預かっております。「1 年生になったら」という歌がありますけど、「友達 100 人できるかな」入学したら 305 人のお兄さんお姉さん、自分たちを合わせてですね、お友達が待ってくれているという環境です。次にこちらは、統合前のそれぞれの学校の教職員の数です。少ないところは 9 人、大変だっただろうなと思います。子どもの人数が少なくても、学校の仕事、校務分掌といいますけれど、役割は同じようにあるんですね。ということは先生方が少ないということは、それだけたくさんの役割分担を持たなければならないということです。本校現在、28 名です。1 学年 2 クラス、それから担任以外も含めて 28 人が務めておりますけれど、私校長として 3 校目ですけれど、これまでの学校がすべて 1 学年単学級の学校でした。その時の先生方のお仕事する様子をしっかり拝見しておりますので、その倍近くマンパワーがあるっていうのはそれだけ校務負担の軽減につながる、校務負担が減ればその分、子どもたちと向き合う時間につながる、そういう姿をたくさん見せていただいております。次に 97%。これとっても私としては嬉しかったんですが、本年度の本校の心のアンケート、これ県下全部の小中学校でだいたい 12 月に取るんですけれど、その中の質問に「学校は楽しいです

か」という問いがあります。本校の子どもたち全部 1 年生から 6 年生までその問いを集計しましたら、97%の子供が好ましい回答をしておりました。楽しいと。-3%なんですけど、私もそこが心配になり、探ってみましたら 1 年生が多かったんですね。ですので、幼い子どもというのはちょっと友達とケンカしたとか、先生に怒られちゃったとか、今日忘れ物したとかそういうことで、その日の気分でちょっと左右するところがあるのかなという風に、自分の都合の良いようにとらえているんですけれど。もう一つそれを裏付けるのがですね、こちら 100%、なんと 6 年生は「学校が楽しい好ましい」と回答した子供が 100%でした。これはとっても嬉しいことです。だんだん学年が上がっていくと、人間関係、友達関係難しいところあると思うんですけど、本校最高学年の 6 年生はこのような回答でした。

次に「象徴する言葉」を紹介させていただきます。「みんなで素敵な学校にしたいです」今年私がまいりまして、毎日授業をぐるっと見て回っているんですけれど、12 月でした。1 年生の道徳の授業のなかで、子供たちがどんな学校をつくりたいかというのを発表していたんですね。たまたま私が発表している子供の言葉に耳をとめた時このような言葉を 1 年生が言いました。周りの子供がワーッと拍手する、とてもいい言葉だなと。これはすぐホームページでも紹介したんですけど、嬉しい本校を象徴する言葉です。次 2 番目です。この言葉は毎年 1 月に取っております、学校評価アンケート、保護者の皆様のアンケート。色々数をチェックするだけじゃなくて、学校に伝えたいこととか、自由記述のところもあるんですね。その中に毎年のようにこのような言葉があるという風に伺っていますけど、今年も「友達とのかかわりが広がりました。」という嬉しいお言葉をいただきました。これすごい肥後弁丸出しなんですけど、これはですね、先ほどもありましたけれど本校はコミュニティスクール、小中併せて玉陵学園のコミュニティスクールとして運営をしておられます。そのコミュニティスクールの地域の代表の方で松川会長さんと言われるんですけど、その方が私が毎朝一緒にあいさつ運動とかしている時に、しみじみとこういう風におっしゃいます。「一緒になってよかった。」と。小中合同で、後でも紹介しますけど、あいさつ運動とかもしているんですね。その姿を見て本当に一緒になってよかったと喜んでおられます。地域の方を巻き込むと先ほど古賀先生もおっしゃいましたけれど、まさに本校はそのような体制がばっちり取れております。

次は「象徴する写真」です。身近にある素晴らしい中学生の姿をいくつか紹介させていただきます。これは金栗タイムといって、バス通学になった子どもたちの体力低下を食い止めるために開校以来始められているものですけれど、中学生は駅伝大会が近くなると一緒に中学校のグラウンドで走っている。今年は密を防ぐために小学校のグラウンドだけじゃなくて、5，6 年生は中学校のグラウンドを走らせています。だからこのように、小学生と中学生が一緒に走る姿があります。三次先生がおられた、平成 30 年に中 1 だった子供たちですよね。素晴らしい中学生が育って、競い合ってお兄ちゃんたちに負けずについていくみたいな感じでですね、毎朝元気に走っております。これが先ほど紹介いたしました、小中合同あいさつ運動です。あちら側に体操服姿の 6 年生、手前に中学生がずらりと並んでおります。徒歩通学の子どもたちしかここは通らないんですけど、来ましたら、中学生は黄色い線で必ず立ち止まって自転車を止めておはようございますとあいさつをするんですよね。小学生はまだまだそこまでいかないんですけれど、あのようにみんなに迎えられて、遠くから歩いてきている子どもたちも笑顔で学校に入っていきます。そしてその後、

これは記念写真で撮ったんですけれど、これだけの人数がぐるっと丸くなって松川会長さんの訓示があります。「あいさつの声が元気になってきた、よかぞ」とか「中学生みたいに小学生もまちっと声出せ」とかですね、そういう毎朝の光景もございます。次に、授業の様子です。左は2年生の生活科、それぞれ6校から来ていますので6校の旧校区の自慢をしようという、1つの学校ではなかなかできない学びも6校集まっているから実現しています。それから右側は、2年生の今年の水泳の授業の様子です。人数少ないと中々頑張れん、水泳大会だったと思うんですけど、学年ごとの、声援も小っちゃかったってこれまで。だけど、いっぱいお友達が泳ぐ時に向こう側から頑張れ頑張れ言ってくれるので 25m いきましたとかですね、そういう子どももおりました。あちら側で日傘をさして見守ってくださっているのが、学校運営協議会の皆さん、安全見守り委員ですね。たくさんおいでいただきました。またプール開きの時は、今年は特に中学校3年生にお願いして、6年生のプール開きの時に模範泳法をしてもらいました。こういうのもすぐ横に中学生がいますので、お願いしたら「よっしゃ！」という感じでその時だけ授業抜け出すのをOKいただいてですね、バタフライとか素晴らしい泳ぎを見せてくれて、とっても小学生にとっては憧れの眼差しで眺めておりました。これは4年生の音楽の授業です。たくさんだから笑顔がいっぱいで、合奏もじゃんじゃんできます。これは校内の行事がらみの写真なんですけど、左側はこれも学校運営協議会の皆様が大きな竹を、2本持ってきてくださって、中学校ではそれぞれの学級で小さい竹を学級ごとに飾り付けをされたんですけど、小学校はそれはなかなか難しいので、じゃあ1組竹と2組竹にしましょうということで、1組さんと、2組さん笹竹に飾り付けをしました。右はじゃがいも掘り体験です。ずっと自粛自粛でですね、休校明けにPTA会長さんが「うちのじゃがいも掘っていいですよ」ということでザクザク採れてですね、みんなでたくさん掘ってとっても喜んで持って帰りました。次はこれは PTA 活動の一環なんですけれど、これもマンパワーが倍になったというか小学校にとっては 6 倍なんですけれど、プラス小中合同で美化作業を行います。ですので、校地は広いんですけれど人手は多くございますので、そんなに大ごとしなくても綺麗に定期的にしていただいています。また学校運営協議会の皆様には、高木の伐採、それから特別支援学級の子供さんが畑がないと言ったら荒地を耕して畑を作ってくださいました。それと本校は校舎周りに芝生が植えてあるんですけど、その芝刈りもですねあのようにしてくださいます。私はしきりませんけど、中学校の校長先生はなさるんですね。だけど「先生たち仕事があるけんよか、おれたちがしとくけん」と言っていつもこんなふうに快く支援をしていただきます。

「その他」というところで、私から見たメリットですね。統合したメリット、適度な緊張感がございます。ずっと保育園から一緒に育ち上がっていくと、同じ人間関係の中で兄弟みたいにしているもんだから、緊張感のためにはどうだろうかなと思うところありました。今はやっぱり子供たち適度な緊張感をもって暮らしているように思います。それから毎年新たな人間関係が築けます。というのも毎年本校クラス替えをしておりますので、1組2組あるからですね。人間関係の窮屈さとか固定化を回避することができています。それからやはり授業等では、多様性と出会うチャンスも人数が多ければ増えていきますし、競い合う場の実現もございます。少人数だと中々そこが難しいところが、お友達と競い合う「わぁ、あの人すごいな」という場面がたくさん見受けられます。これにはやっぱり横でモデルを示してくれている中学生が良きモデルです。素晴らしいです、玉陵中の生徒さんです

ね。何につけ私も中学生を引用して「玉陵中の 3 年生を目指さないかん」という風に伝えているところです。

「懸案事項」としましては、今私が感じていますのは、広大な校区、6 校区ございますので、この校区の把握と安全管理、帰った後の遊びとかですね。それがやっぱり通常の校区より 6 倍ありますので、ここはちょっと今懸案しているところです。それから地区との接点の減少。これはそれぞれのこれまで 6 校それぞれの校区にあった場合は、その校区に元々根ざしていた伝統的な行事とかですね、子供も一緒になってずっとしておられたというものもあると思うんですけど、でもこれもですね、工夫と情熱次第で、梅林の流鏑馬とかですね、神楽とかですね他の校区でも続けておられているところが多いようです。それとスクールバスに係る制約事務というとこで、乗った乗らんていうのをちゃんとつかまなきゃいけない安全管理というのもあるんですけども、残してお勉強はもうちょっとこの子頑張ってほしいな、でちょっと残して指導したいところ、やっぱりバスで帰る子どもたちは残せないんですよね。そういう制約は私これまで経験したことはありませんでした。それから担任以外の児童、保護者との距離はやはり小規模校に比べますとあるかなと思います。学校に行けば、例えば保護者の方来られたらどの先生もみんなわかっているという環境とは少し違うかな、でも 6 年上がっていくうちに、だんだん環境ができていくのかなと思います。それと、本校職員が言いますのが、中学校進学への適度な段差は必要だろうと。オールフラットという訳ではないんですけど、中学校・中学生があまりにも身近ですので、中学校に上がるというそのあたりの気持ちがですね、もうちょい作ってあげた方が良いのかなというのは聞きます。

私からの話はつたない内容でございましたが、以上でございます。資料で別紙準備していただいている分は、子供の元気発信ということで本校のホームページから取っていただいたものです。やはり休校明けはですね子供たち元気ありませんでした。どこら辺からかなと思った時に、やっぱり水泳の授業が始まったり、運動会、持久走大会とか行事を課せられるごとにどんどん本来の良さが出てきましたので、そこをピックアップしていただいています。ホームページ毎日更新して子供たちの様子をお伝えしていますので、是非是非この審議会の皆様方にもですね、玉陵小学校と検索していただければありがたいです。大変長くなって申し訳ございません。私からは以上でございます。

事務局（乗富）：井上校長先生ありがとうございました。

4　議事

事務局（乗富）：これより先、議事に入りますので、会長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

議長：はい、それでは議事に入らせていただきます。まず今日の次第にもございますように、議事は 5 つございますがその中で、「1　2020-2025 年の生徒の推移について」「2　笑顔を育む玉名の教育プランについて」「3　玉名市の小中一貫教育のとりくみについて」このことにつきまして、事務局の方で資料を用意していただいていますので、これについてのご説明、どうぞよろしくお願い致します。

事務局（乗富）：はい、では私の方から議事 1，2 をまとめて説明いたします。はじめに、

「2020-2025 年の生徒の推移について」でございます。本日配布資料の 4 ページをご覧ください。資料は事前に送付しておりましたものに、2030 年の生徒数を追記したものでございます。2020 年の生徒数は、特別支援学級の生徒数は入れておりますが、クラス数は入れておりません。2025 年、2030 年の生徒数は住民基本台帳を基に生徒数を予測しております。クラス数は 1 クラス 40 人として計算しております。前回の計画で望ましい学級数の考え方を 1 学年 3 学級以上、学校の学級数を 9 学級以上としております。今回お出しした資料は、この議論の参考にしていただけるかと思っております。

次に「笑顔を育む玉名の教育プランについて」でございます。玉名市では教育基本法に基づき、教育の振興方針と施策の体系を示し、市全体での教育振興を図るため、玉名市教育振興基本計画を策定しております。令和 2 年 3 月に策定した、第 3 期の計画が「笑顔を育む玉名の教育プラン」でございます。前回の会議の時に配布いたしました、緑色のリーフレットが概要版でございます。リーフレットの 5 ページに基本理念・基本目標を記載してありまして、7，8 ページに関連となる指標と目標値が記載してあります。少子高齢化や都市部への人口集中等、地域を取り巻く環境の変化が大きい中で、時速可能な地域の形成には地域を担う人材を、世代を問わず幅広く育成することが重要となってまいります。ICT の普及や急速に進むグローバル化等目まぐるしい変化についていく現代社会の中で、国際的な視点を持ち、変化に対応していく力を持つこと、一人一人が社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら生き抜く力・主体性をもって問題を解決する力等を身につけることが教育に求められております。また、その中で市民一人一人が自ら求める学びを実践し、自己実現を果たすことができる機会や自らの能力を発揮し、貢献する機会を創設していくことも目標としております。そのことから基本理念を「生涯を通じて未来を拓く地域と国際社会に貢献するかがやく人づくり」といたしております。言葉で説明すると大変わかりにくいので本日の資料に付けております、5 ページになりますけども、そちらの図を見ていただければと思います。このイメージ図を見ていただくとわかりやすいと思っております。基本理念に向かって基本目標がありまして、目標の下に方針がございます。それぞれについての課題に向かって取組を進めて行くものでございます。「笑顔を育む玉名の教育プラン」については以上でございます。

事務局（髙田指導主事）：では私の方から「玉名市の小中一貫教育のとりくみ」について少しお話をさせていただきます。小中一貫教育と申しますと、施設一体型のイメージがあると思いますけども、先ほど井上校長先生からお話がありました通り、玉陵小中学校がその一つの例かと思います。その他の小中学校に関しましては、中学校区ごとに小学校と中学校が互いに連携協力をしながら、義務教育の 9 年間を見通した、一貫性のある学習指導や生徒指導を行うという教育を玉名市の小中一貫教育ということで進めているところでございます。次にその良さとかメリットですけども、例えば小中で学び方を揃える、または小中で共通実践をしていくということで、小学校の子供たちが中学校に上がった時もスムーズに進学ができるという、いわゆる中 1 ギャップを少なくできるというところが一つのメリットとして挙げられると思います。それと子供たちを義務教育の 9 年間で育てていくという職員、先生方の意識の高まりにも繋がっていくというところが一つの良さ、メリットとして挙げられるかという風に考えております。それでは少し具体的にお話をしていきたいと思います。令和 2 年度の玉名市の小中一貫教育という資料をお載せしておりますのでご覧下さい。見開きのページのものでございます。一枚目の一番左側が玉名中学校区になっておりますので、玉名中学校区の方で少し説明をしていきたいと思います。玉名中学校

区は 4 つの学校で成り立っている学校なんですけども、その目指す児童生徒像ということで 3 つ挙げておりますが、主に「知・徳・体」の 3 つの観点からこういう児童生徒を目指したいというところで設定をしてあります。そこでその目指す児童生徒像に迫っていくというところで、具体的な目標をというところでそれぞれ知育部会・徳育部会・体育部会というところで、具体的な目標をいくつか掲げます。そしてその目標に迫っていくためのというところで、共通実践事項というところでそれぞれですね、知育部会ではこのことを全部の小中学校で実現していこうところで、知育徳育体育それぞれの部会で設定をしております。その中で二重丸がついているものがありますけども、これだけは重点的にやっていこうというところで、取組を進めているところでございます。玉名中学校区の特色としましてはですね、先ほど玉陵小中学校の方でもありましたけども、小中合同のあいさつ運動ということで、中学生が出身の小学校の方の朝行きまして、小学生と一緒にあいさつ運動をするというところで、先ほども小学生が中学生を見てあいさつの仕方を学ぶというようなことがありましたけども、小学生が中学生のあいさつを見て格好いいなと、こんな風なあいさつができるようになりたいなという憧れを持ちますし、中学生は小学生と一緒にしますので責任感を持ってきちんとあいさつをして、または小学生からそういった憧れの目で見られるので自己肯定感を高められるということにもつながっていくんじゃないかなという風に考えております。それと、中学校の定期テストの時期に合わせた学力充実期間ということで、「頑張りウィーク」というところを実施して、小学校中学校の家庭学習の習慣化、また中学校の兄ちゃんが定期テストの勉強をしている時に小学生の弟妹も一緒に勉強するというところで、そういったところを狙いながら「頑張りウィーク」というのを設定しながら実践が行われているというところです。それと本年度はですね、コロナ禍の中でもありましたので難しいところもあったのかなと思いますが、小中合同のですね授業の研究会等を開きまして、小学校中学校それぞれの授業の中でどんなことを大切にされているのかというところを小学校中学校の先生方がしっかり学ばれたり、または子どもたちを中学校に進学させるにあたって、このような力を付けておかないといけないなというところを振り返るですね、そういった機会にもなっているかなというふうに考えているところです。玉名市の小中一貫教育というのは、地域や学校の特色を生かしながら各中学校区で工夫をしながら義務教育の９年間で子どもたちを育てていくという視点で今行っているところです。私からは以上です。

議長：はい、ありがとうございました。それではただ今の説明につきまして、何かご質問ご意見等ありましたらどんなことでも結構です。また、玉陵小学校の井上校長先生に在席していただいていますので、もし玉陵小学校に関することに関してもご質問等ございましたらお話いただけると思います。いかがでしょうか。
―確認―
それではですね、またご質問等につきましては随時お受けするということで、次第に戻りますと、今日の議事の４番目５番目、４番目が「育てたい玉名の子ども像」小学生中学生とありますが、前回の第１回で小学校について・・玉名の小学生について気になるところだとか、こんなところで頑張ってもらいたい、こんなところがよく頑張っている、そういったご意見いただきましたが、本日は、玉名の中学生についてはいかがでしょうかということをこれからお伺いしたいと思います。そして一通りご意見等いただきましたら、「学校教育環境の充実について」ということで、中学校について気になるようなことがございましたらまたご意見いただきたいなということで、これからの後半 20 分程度でございますが、

お話をいただければと考えております。いかがでしょうか、まず玉名の中学生について気になること、こんなところが今頑張っているよといったような、プラスマイナス伸ばしたいところも含めてお気づきのことがありましたら是非ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。特に今は保護者の方で、中学生のお子さんがいらっしゃるような方がおられましたら是非どうでしょうか。わが子の話だけではなくても結構ですが、友達関係であるとか、学校のことでの悩みであるとか、何かそういったお気づきのことがありましたらお話いただければと思いますがいかがでしょうか。はい、お願いします。

Ａ委員：伊倉小の荒井です。うちにも中学 2 年生の男の子がいるんですけど、来年度は 3 年生ということで、やっぱり進学について今悩んでいるんですけど、その中で玉名の高校に行くかそれ以外に行くかということでも悩んでいます。今結構玉名から熊本市内の高校に行くという子が以前と比べて今多いように思います。玉名の高校に行く魅力ですかね、玉名に残るというそこら辺が今ちょっと薄くなっているような気がします。玉高附属中学校もできまして、それで玉高のレベルが上がるのかなと保護者も期待していたんですけど、それがそうでもないような気もするんで、子供たちの意識がよそに向いているのかなと思います。今悩みとしてはこんなところです。

議長：はい、ありがとうございました。中学校 2 年生ですね。先ほど小中一貫教育の話の中で 10 歳という話がありましたけれども、その次の大きな節目が 14 歳なんです。下から言いますと、4 歳・10 歳・14 歳という節目ですが、4 歳だったら年中さんですね。多分 4 歳のお子さんをお持ちの方は大変苦労されてきたと思うんですが、そういった意味では中 2 の問題とかいっぱい出てくる中でですね、本当に健やかに育っていってほしいとは親御さんの一番の願いだろうと思います。ありがとうございました。そういった玉名高校の附属中学校、結局附属中は３つできましたけれども、ご案内の通り定員割れという形でいろんなところが厳しい状況を迎えているかと思います。それがどうしてかというというのは、今熊本県でも高校の魅力化検討委員会というのが発足して検討中だという風に、私は委員ではないですがそういう話を伺います。いかがでしょうか、そういった具体的な事柄を含めましてどんなことでも。前回ですね、女性の保護者の方の発言をあまり私が引っ張り出すことができなかったので大変申し訳なかったですが、是非今日は女性の保護者の方で元気のある人がいっぱいいますよという話を聞いておりますので、いかがでしょうか、お話しいただけると大変ありがたいのですが。はいどうぞ、お願いします。

Ｂ委員：小天小学校の神田と申します。天水中学校の生徒の皆さん見ているとですね、やはり私たちが小学校中学校の頃と比べると一言で言うと素直なところがかなりあると思います。私とかヘルメットかぶれと自転車乗る時言われてもかぶってなかったんですけど、今の子は安全教育がすごい行き届いているのもあって、小学生も休みの時でもヘルメットかぶってちゃんと自転車乗っているし、あいさつとかも本当にみんなきっちりでそこら辺素直だなと思います。というのも、前回もお話したと思うんですけど、小天小学校、天水中学校、玉水小学校もそうなんですが、やはり学級が少ない少人数な学校の部類に入るので、その辺で限られたコミュニティの中で、親の目も先生の目も行き届くような、そういう結果に表れているのかなと思います。それが統合であるとか、小中一貫で規模が大きくなった時にどういう反応と言いますか、人数が多くなった時にコミュニケーションとか上

手く取れるかなというのがひとつ心配な部分であります。だけどだいたい見ていると本当素直な子が多いのかなというふうに思っております。以上です。

議長：はい、ありがとうございます。すみません、今のご発言ですが、その子供がとても素直ということですが、男の子も女の子も関係なく素直で？

Ｂ委員：どっちかというと、私も男の子の方をよく見るんですが、どうしても男性なので。特に自分の子どもの頃と比較するとですね。やんちゃな子供も、もちろんいるんでしょうけど。

議長：ありがとうございました。はい、お願いします。

Ｃ委員：すみません学校の立場からということで、中学生ということでしたので。有明中の三次と申します。よろしくお願いします。僕は生まれも育ちも玉名市で、実はもうなくなりました小田小学校の出身でですね、いわゆる玉陵小学校の校区なんですけど、ふるさとをどう子供たちが見ているのかなということが僕にとってはとっても気になって。とにかく自分のふるさとは自分でどうにかしないと、他から来てもらって発展させてもらえるとか、やってもらえるとかいうことじゃなくて、自分のふるさとは自分で守っていくというんですかね、発展させていくような子供たちを育てたいというのが私の気持ちで、それぞれの学校、小学校は特に地域の方と近いと思うんですけど、ふるさとをどのように子供たちに理解させて、自分がそのふるさとを背負う人間になってほしいという。玉名市には玉名学というのがずっとあって、今いわゆるさっき特区の話を引っ張ってしまったもんですから、また総合的な学習の時間に戻ったんですけど、それぞれの学校とにかく地域の方と協力しながら自分のふるさとのことを勉強するということについてかなり一生懸命やっていると思うんですが、そこを今の育てたい玉名の子ども像の中に自分のふるさとを愛して、自分のふるさとを自分で守ったり発展させたりするような子供を育てたいというのはとても思います。実質、そういういわゆるカリキュラム的なことをしている時は、子供たちはとてもいい感想も書いてます。私は有明中なんですけど、横島干拓に関わった人々の力とかですね、あるいは大浜飛行場ことなんかもかなり勉強するんですけども、そういう風なことの感想なんかもとても素晴らしい感想書いている子供たちもいるので、地域の人たちと一緒になって自分のふるさとを自分で守るような子供たちを育てたいなという気持ちを持っています。それからちょっと長くなりますが、今の子供たちどんなかなという話がかなり出ておりますが、今まじめで素直な子どもたちが多いというのは私もそう思います。反面、ちゃんと自力でいろいろやっていけるのかなと心配する子供たちが増えているのも事実じゃないかなと思います。言われたことについてはきちんとやりますけど、じゃあ本当に自分で何もないところでフッとやられた時に自力解決みたいなそういう力が育っていない子供たちもちょっと増えてきているのかなという気がしますので、そういったところも含めて学校としても一生懸命子供たちを育てて行きたいと思っています。長くなりました、以上です。

議長：はい、ありがとうございました。最後に、おっしゃったことが新しい学習指導要領のまさにポイント中のポイントになりますね。正解のない問いに答える力、それの手立てとしては体験・経験、これが一番ということだろうと思います。ありがとうございました。

いかがでしょうか。今のことに付け加えると逆に言うと、今の子供たちの体験不足ということが課題として挙がるかと。ちょっとこれ付け加えさせていただきます。いかがでしょうか、何かお気付きのこと地域の方でも結構ですが、中学生について。以前はですね、中学生を見るとみんな悪いことばっかりしているようなイメージで、小学生の親御さんは「中学生と付き合っちゃいかん」「悪くなる」とかそういう風なことを青少年健全育成では言っていた時代もありますが、今ご指摘の通り中学生はですね本当に素直で、そして先ほどの玉陵学園みたいに中学生が率先して子供や小学生に模範を見せる、それが中学生にとって自信にもなるし、例えばちょっと成績があまり良くない子供でもそういった小学生の面倒を見ることによって自尊感情が高まっていったりする。そういった交流っていうのが先ほどの写真等から、委員の皆様も窺えたんじゃないでしょうか。いかがでしょうか、何かお気付きのことがありましたら、是非お願いします。

せっかく井上校長先生がいらしゃるので一つ質問よろしいでしょうか。さっき写真の授業の中で生活科でしたか、旧 6 つある校区のそれぞれの自慢だとかそういったことを出し合ってということですが、もうちょっと、その時校長先生はいらっしゃったんでしょうか、授業の時に。どういう雰囲気だったんでしょうか。そこら辺を先生方聞かれていることもあったら紹介していただけたら。

井上校長先生：だいたい 2 年生の生活科であのような学習をする時にはですね、実際歩いて一つの校区であればですね、今日はこちらの地区方面に行こうとか、何回か歩いて良い所とか自慢できるような所を探すというやり方が通常なんですけれど、本校はそういうわけにはまいりませんので、その校区まで歩いていくというのはですね。ですので、それぞれの旧出身学校のことについて子供たちが絵を描いたり、実物を持ってきて見せるというのもあります、神楽の面とかですね、そういうものを持ってきて紹介し合う。そして広いんですけど、6 つの校区のそれぞれの良さをお互いに知っていく。今度はじゃあ遊びに行ってみようかなとか、そういうふうに自分たちの旧校区だけじゃなくて生活の広がりというのを持たせたいなというのが担任の狙いだったように思います。私も 1 時間ずっと見てたわけじゃないんですけど、子供たちが作った説明の絵とか文とかそういうものは学級の中に掲示をしてですね、もしくは廊下等に見えるようにして他の学年の子供たちも自分の旧校区「ああ、こうだよね」っていう感じで誇りに思ったりとか、そういう学習もしております。以上です。

議長：ご紹介ありがとうございました。そういった意味では、本当に玉名学という大きなくくりの下に、例えば玉陵学園のなか旧 6 小学校のそれぞれの色があって、そういった全体の総合的な地域教材カリキュラムの開発など、大変かもしれませんが試み的にも面白いかもしれませんね、3 年くらいかけられて。そして生活科でそういう気付きがあったものを総合的な学習の時間で探究化していったりとか、そういうふうな手立てをされていくと、本当にみんなで育った玉陵小学校、玉陵小学校は第 1 世代、3 年ぐらいでしょうか、そういった形で目標にされるのもひとつ、面白いかもしれません。いかがでしょうか、お気付きのことがありましたら、はいどうぞ。

A 委員：今の中学生についてですが、一つはコロナの影響で外に出歩くということが、中々友達と遊ぶ機会も少なくなりましたので難しかったと思うんですけど、今の子はやっぱりゲーム、スマホに依存している時間がかなり長いですね。友達とのやり取りも中学生でも、

2年生でもケータイ持っている子が半分くらいいるような感じで、スマホで連絡をとって遊ぶとか、外で遊ぶというのが極端に少なくなっているように思います。昔は学校の部活をやってたんですけど、今の子は学校の部活だけじゃなく、外部のクラブチームで運動したりとかいうのも多いので、その中で付き合いが細分化されているというか、分かれているような気もします。それで、放課後の遊びとか外での遊びが少なくなっているような気はします。うちの 6 年生の娘もいるんですけど、やっぱり中学校に上がるということで非常に不安を抱えていたんですけど、先日中学校の見学会がありまして、その中で授業風景と特別支援学級だったり、部活の紹介だったりがあって中学校の内容を知れて少し安心したところもあります。中学校になるとやっぱり、今までの小学校単位でクラスのみんなとひと塊になって、うちは1クラス20人くらいのクラスなので、みんな一緒に遊んでたと思うんですけど、中学校になるとどうしても部活の友達と遊んだりとかで、今まで付き合っていたお友達ともう遊べないんじゃないかという不安もあって、そういう悩みも小学生は抱えています。質問もいいですかね。小中学校の校長先生に質問したいんですけど、小学生と中学生の直接の交流、またはその校区の小学校同士の交流がどれぐらいあるのかちょっと教えていただきたいんですけどよろしいでしょうか。

議長：はい、交流ですね。どなたか。

D委員：鍋小学校の西本です。中学校は岱明中学校校区になります。今年度はですね、コロナがありましたのでその交流のところが大変制限されておられますので、これまで取り組んだというところでお話します。まずは、小学校校区の4校ですね。4校は遠足とかそういうところで交流しながら行っております。それを一緒に企画して歓迎遠足はどのようにするかとか、他校と集まった時どのような学校長会で自由時間に遊ぶか、そういう行事ごとに行っております。天水中学校さんは一緒に修学旅行に行かれるとかそういう取り組みをされておられます。それと直接に子供たち同士の交流はありませんけど、中学校の先生に小学校に来ていただいて、そして小学校の子供たちに授業をしていただく、乗り入れ授業という方法をしておりますので、子供たちは間接的に中学校の学びをそこで学ぶということで、これまで小中一貫教育が各中学校区ごとに置かれて数年来になりますけども、そういうところで中学校を小学校が身近に感じて対応できているかなと思います。コロナ禍においても、そういうところで、他校の子供たち同士の交流が制限されていますけど、これまでは推進しておりました。

E委員：横島小学校の本山です。今横島小学校ですけども、その前は天水の玉水小にいました。今ちょっと話が出ましたけど、天水町はですね4年生が、今は2校ですけど以前は3校一緒に宿泊して、そこから学校に登校するというような取組があってました。それと 5 年生の集団宿泊でも一緒に行って、みんなが一緒に過ごします。それと 6 年生は修学旅行ですね。天水町は 4 年 5 年 6 年と宿泊付きで子供たちが交流しているので、中学校に行ってもとても知っている子供たちと出会うというそういう環境にありました。今有明中学校区に来たんですけど、今年度集団宿泊をですね 3 校で一緒に行くというふうな計画を立てていました。ただ、丁度コロナで「水俣に学ぶ肥後っ子教室」というのが中止になりまして、補助金も出なくなって、という事でバスも広くしたり増やしたりしなきゃいけないので、今年度は一緒に行くことができなくなって行き先を菊池に変えたんですよね。できませんでしたけど、有明中学校区でもそういった形で同じ日に集団宿泊をしようということ

で今動き始めたところです。ただ来年度は今のところ「肥後っ子教室」はオンラインであるということで、ただ集団宿泊は今のところ芦北に一緒に行くように計画をしています。後は中学校の場合は体験入学の時に一緒になる、あいさつ運動は中学生と小学生は一緒に、小学校同士の交流は今の時点では体験入学、後は中学校区じゃないんですけど市の大会ですね、スポーツの大会とかは一緒にします。以上です。

議長：はい、ありがとうございました。昔と比べると、随分小学校と中学校、子供たちの活動もそうですし、それぞれの学校の先生たちが乗り入れという風におっしゃいましたけれども、そういった形で実際に中学校の先生が英語に入ったり、算数に入ったり、それと音楽が割と多いですね。そういった形で、そうすると中 1 ギャップというのがなくなるという、知った先生ばかりだということですね。今音楽という話をしましたけれども、小学校の先生方がどうだというわけじゃなくて、小学校の先生方は全科を教えられます。そんな時に中学校の音楽の先生が入って、例えばコーラスの指導だとか、全然違うんですね。迫力とかそんなところから本当に専門教科の楽しみみたいなのを伝えていく。そういう機会は玉名に限らずいろんなところで子供たちに伝わっているんじゃないでしょうか。いかがでしょうか、他にお気付きのことがありましたら、今日は子供たちのこと、中学生のこと、小学生も含めてお気付きのことがありましたらお伺いしますが。はい、ありがとうございます。お願いします。

Ｆ委員：滑石小の坂本です。滑石小学校は 6 年生 20 人ほどが玉中の方に 200 何十人多いところに入っていくので、どうしても不登校になる子が多いという噂はすごいんですよね。今度 6 年生、うちは男の子なんですけど、下に 5 年生の女の子がいて、やっぱり男の子はクラブ活動で野球やっているので安心なんですけど、女の子の中学生の子が家に遊びに来ても、「部活動で友達と遊ぶけんがはぶかれた」とか、いじめじゃないけどつらいという相談を受ける中、女の子を行かせるのが怖い。そういうところ今どうなっているのかなと、現実的にそういう子がいたということも知っている上で、不登校の子がいたという状況を知っているのでそこが怖いです、以上です。

議長：はい、ありがとうございました。今の話は、中々多人数のところに小さな学校で、中学校になると大きくなるので、上手く溶け込まないというか、コミュニケーションを

Ｆ委員：そうですね、できない子がどうしても出てくるていう、だから滑石から不登校が出るという噂を聞きます。

議長：そういった現実があるということを一人でも二人でも知っているということがあればですね、大きなことです。やっぱり私たちが考えなきゃいけないのは、そういう子供たちを前提にしてどういう手立てをすれば、楽しい学校生活を送れるのかということで、そこら辺の知恵を今後出し合っていきたいと思います。元々小中一貫教育というのは中 1 ギャップという不適合から起きたことで、だいたい新しく取り組もうという手立てというのは、元々はネガティブな課題、教育上の課題ですから是非そういった形で、子供たちを守るのが保護者の一番の仕事ですから、是非またご発言いただければと思います。今日はありがとうございます。他にご意見等は、いかがでしょうか。

それではですね、今日は 5 番目の学校教育環境の充実についてということを用意してお

りましたけれども、限られた時間ですので、４番目の育てたい玉名の子ども像小学生中学生ということで、前回は小学生、今回は中学生ということ、特にご発言がありましたように、思春期の子供たちというのが一番親御さんにとって気になるところでありまして、そういった思春期の子供たちの育ちのステップに私たち大人が気付いているかどうか、そんなことも問われるような意見の交換ではなかったかと思います。これからですね、玉名市学校規模適正化審議会、学校適正化がひとつ大きな柱ではございますけれども、そういった子供たちの姿、玉名の子供たちの姿を踏まえながら、どういった教育改善、あるいは教育課程や指導方法の改善が求められるのか、より良い手立てはないのかどうかといったような意見のやり取りも、大きな玉名の教育を考えるというテーマで議論を進めさせていただければという風に会長として心掛けたいと思います。それでは、よろしいでしょうか、特にご発言がないようでしたら、このあたりで進行を事務局にお返しします。本日はありがとうございました。

5　その他

事務局（乗富）：古賀会長、ありがとうございました。それではその他に入ります。３月の日程調整でございます。先日お送りした文書で、３月１８日開催で連絡しておりましたが、大変申し訳ありませんが、３月２２日に開催したいと考えております。変更いたしまして申し訳ございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。また文書でご案内いたします。

6　閉　会

事務局（乗富）：本日は皆様のご協力のもと、スムーズな議事運営ができたと思っております。ありがとうございました。最後に、閉会を玉名市教育委員会教育部長西村が申し上げます。

西村教育部長：本日はお疲れの中、大変お世話になりました。また、今後もこの会議ございますので、是非これからもよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

事務局（乗富）：正面玄関が閉まっておりますので守衛室の前の出入り口をご利用ください。お気を付けてお帰りください、ありがとうございました。